

平成 28 年 8 月 1 日

南の風 194

南部ミニバスケットボール連盟
会長 藤原 敬一

まず、オーストラリアとアカツキファイブに共通していたタクティクスです。

オフボールのスクリーンです。パッサーがユーザーのディフェンダーの動きを読み、できたスペースにパスを通すプレイです。顕著だったパターンは、スタンディングのポストマン（ニュートラル・ゾーン付近）を利用したアウトサイドスクリーンです。パッサーはトップポジションとし、ユーザーはビッグコーナー付近とします。

ユーザーがポストマンをスクリーナーとして利用して、ユーザーのディフェンスの動きによって、ノーマルカット、カールカット、フレアークットをしてボールを受けてシュートします。

ノーマルカットは、ユーザーがポストマンにブラッシュするようにゴールカットしディフェンダーが対応してきた時に、直角にもう一度ポストマンにディフェンダーをブラッシュして、ポップアウトして外に出てシュートするプレイです。

カールカットは、ユーザーのディフェンダーが後方から追いかけてきた場合に、ポストマン（スクリーナー）にユーザーが巻き付くように動き、ディフェンダーをスクリーナーにぶつけてノーマークになるようにするプレイです。このカールカットを両チームが多用していました。

フレアークットは、ノーマルカットをした時に、ユーザーのディフェンダーがポストマン（スクリーナー）とスクリーナーのディフェンダーの間をすり抜けて先回りしようとしてきた時は、外側に広がりパスを受けてシュートします。

この3つのカットは、ポストマンを利用したアウトサイドスクリーンの基本的なプレイになります。ミニバスでは、オフボールのスクリーンプレイは、馴染みがうすいかもかもしれません。なぜなら外側でノーマークをつくるプレイであることで、ロングシュートの決定力が問われることや、パッサーがディフェンスの動きにアジャストしてパス出さなければならないからです。

次にオンボールスクリーンについてです。オンボールスクリーンプレイは、オーストラリアよりむしろアカツキファイブに多かったです。読者の方もご承知のように、現在オンボールスクリーンは、大きく分けて4種類とされます。ピック&ロール、ピック&ダイブ、ピック&ポップ、ピック&スリップの4つです。《呼び方はU-18エンデバー講習会のものを参考にしました》

内海ヘッドが多用したのがピック&ダイブでした。ガードとセンターフォワードとの合わせです。オンボールスクリーンの場合、周囲のプレイヤーが邪魔しないことが鉄則です。スペースの取り方が大事になります。オーストラリアとの第3戦では、トップガードの吉田とセンターフォワードの高田とのピック&ダイブの際、周りの本川、栗原が外で合わせを待ち、間宮が逆サイドでリバウンドに備えるといった布陣でした。

このプレイは、観ている我々にとってたいへん参考になりました。ミニバスでも十分使えるプレイです。スクリーンプレイは合理的なプレイです。スペースをつくったり使ったりすることで、状況判断力を養うことができます。ミニバスにも取り入れる価値があります。次号でもう少し詳しく書きます。